

対象機器：太陽光発電システム構成機器（太陽電池セル・モジュール、ケーブル、パワーコンディショナ、接続箱、開閉器、ヒューズ、バックシート等の樹脂材料、トラッカー）

■背景及び課題

- ・太陽光発電システムの大量導入を背景に、安全性・信頼性に対する議論が活発化している。
- ・バンクビリティを計るための発電量評価基準及びこれを利用する認証の整備が進んでいる。

■活動方針

1. 科学的根拠に基づく規格化を推進する。
2. 国際規格開発に日本意見を反映させる。

■成果

1. 日本発の“EL+IV特性による劣化・故障モード診断”に関するTSのCDを回付した。
2. “集光型太陽光発電システムの安全性”から火災試験を分離し、日本発の火災試験方法をNP提案することが承認された。

■今後の予定

1. 集光型太陽光発電システムの火災試験方法のNP提案
2. 車載太陽電池の一般要件及び標準試験方法の提案
3. 上記NPを含む日本がPLを務める規格群の推進